



2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年11月9日

上場会社名 丸一鋼管株式会社 上場取引所 東
 コード番号 5463 URL <http://www.maruichikokan.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼CEO (氏名) 鈴木 博之
 問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 管理部門管掌 (氏名) 河村 康生 (TEL) 06-6643-0101
 四半期報告書提出予定日 2020年11月13日 配当支払開始予定日 2020年11月30日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家向け WEB開催)
 (百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	77,326	△1.0	7,260	4.2	8,432	2.0	5,433	36.5
2020年3月期第2四半期	78,113	△5.4	6,965	△30.6	8,268	△25.9	3,981	△46.1

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 6,577百万円(345.5%) 2020年3月期第2四半期 1,476百万円(△82.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	65.65	65.57
2020年3月期第2四半期	48.11	48.06

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第2四半期	317,536	268,274	81.4
2020年3月期	310,120	267,282	83.0

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 258,414百万円 2020年3月期 257,279百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	40.00	—	65.50	105.50
2021年3月期	—	25.00			
2021年3月期(予想)			—	39.50	64.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2020年3月期の配当は1株当たり30円00銭(中間配当金15円00銭、期末配当金15円00銭)の記念配当を上乗せしております。

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	157,000	1.3	15,200	3.3	17,200	0.6	10,800	70.0	130.48

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 1社 (社名) 丸ステンレス鋼管株式会社、除外 1社 (社名)

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2021年3月期2Q	94,000,000株	2020年3月期	94,000,000株
2021年3月期2Q	11,211,883株	2020年3月期	11,237,034株
2021年3月期2Q	82,773,955株	2020年3月期2Q	82,753,483株

(注) 期末自己株式数及び期中平均株式数の算定上控除する自己株式数には、従業員インセンティブ・プラン「株式給付型ESOP」制度の信託財産として、株式会社日本カस्टディ銀行 (信託口) が所有している当社株式 (2021年3月期2Q期末: 88,400株、2020年3月期期末: 89,000株、2021年3月期2Q期中平均: 88,657株、2020年3月期2Q期中平均: 91,400株) を含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 今後の見通し	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染症拡大の影響により急速に悪化し、依然として厳しい状況にあるものの、このところ自動車輸出の復調、鉱工業生産指数の上昇など生産活動の一部に持ち直しの動きもみられる様になりました。

海外でも、経済活動の抑制が段階的に緩和されるなど、持ち直しの動きも見られるものの、欧州を始め感染症拡大の第二波の懸念もあります。これら感染症の収束が見通せない中で、経済活動の再開と感染予防の両立を進めるものの、引き続き先行き不透明な厳しい状況が見込まれております。

鉄鋼業界は、国内市場は総じて弱い動きの中で住宅・建築着工件数の減少や自動車生産の前年対比での減少などの主要部門が鈍化し、海外粗鋼生産も増勢を強める中国を除きマイナスが続く、経済活動の再開を図っている中で仮需的な動きが見られるものの、実需は依然厳しい見通しが続いております。

セグメント別の状況は、以下のとおりであります。

(日本)

国内事業につきましては、需要減少および営業活動面での制約もあって、単体の販売数量は前年同期比約△17%程度水準となりました。加えて、販売単価も需要低迷から下落傾向にあり、前年同期比で下がりました。売上高は、丸一ステンレス鋼管(株)の新規連結効果によって544億3千7百万円(前年同期比7.6%増)と表面上は増収となったものの、既存売上高は実質約△18%の減収になりました。材料コイルの調達価格が下がりスプレッドは改善出来たものの、販売数量の減少および製造コスト負担増等から、セグメント利益は66億6千2百万円(同10.0%減)と減益になりました。

(北米)

北米事業につきましては、米国マルイチ・アメリカン・コーポレーション(MAC社)、米国マルイチ・レビット・パイプ・アンド・チューブLLC(Leavitt社)、米国マルイチ・オレゴン・スチール・チューブLLC(MOST社)の米国3拠点は、鉄鋼製造業として安全保障上ロックダウン適用外で操業は継続出来ており、市況の低迷はあったものの、米国3拠点合計での販売数量は前年同期比約3%増となりました。一方、メキシコのマルイチメックスS.A. de C.V.(Maruichimex社)はロックダウンの影響もあり、4~6月の販売数量は前年同期比8割弱の減少、上期累計での販売数量は前年同期比約△27%となりました。

北米4拠点合計の売上高は、前年同期比で販売単価の下落もあって109億9千1百万円(前年同期比20.0%減)と減収になりました。一方セグメント利益は、前年同期の高値のコイル在庫に起因する損失が当四半期では解消したことから、1億6千8百万円の赤字にはなったものの、前年同期比では6億2百万円(前年同期は7億7千1百万円のセグメント損失)改善しました。

(アジア)

アジア事業につきましては、ベトナムのマルイチ・サン・スチール・ジョイント・ストック・カンパニー(SUNSCO社)ではベトナム国内市場の競争激化と近隣国の輸入制限措置拡大等はあったものの、前年同期並みの販売数量は確保しました。一方、マルイチ・サン・スチール・(ハノイ)・カンパニー・リミテッド(SUNSCO(HNI)社)では、新型コロナウイルス感染症対策として二輪車ディーラーの営業停止があり、その影響から販売数量が減少しました。インドのマルイチ・クマ・スチール・チューブ・プライベート・リミテッド(KUMA社)では、4月から6月はロックダウンによる操業停止が続き販売数量が前年同期比8割減と大幅に減少しましたが、7月から9月は経済活動の再開から販売数量は一転して前年同期比4割増となりました。加えて、前年同期に貸倒引当金計上した回収遅延売掛金の一部が回収出来たことから、貸倒引当金戻入による利益増加もありました。

結果、売上高は118億9千7百万円(前年同期比13.7%減)と減収になりましたが、セグメント利益は前年度に固定資産を減損処理したSUNSCO社の減価償却費負担の低減もあり、6億7千7百万円(同209.4%増)と増益になりました。

事業全体の状況は、以下のとおりであります。

販売数量面では、北米4拠点合計では前年同期を上回り、アジア3拠点合計でもほぼ前年同期水準を確保出来たものの、日本国内の落ち込みが大きく、全体では1割強の減少となりました。加えて販売単価も下落したことから、新規連結の丸一ステンレス鋼管(株)を加えても、売上高は773億2千6百万円(前年同期比1.0%減)と減収になりました。利益面は、国内は減益になったものの、北米・アジアが前年同期比改善したことから、営業利益は72億6千万円(同4.2%増)と増益になりました。

営業外損益で受取配当金の減少や持分法による投資損益の悪化などから前年同期比1億3千1百万円悪化しましたが、経常利益は84億3千2百万円（同2.0%増）と増益になりました。特別損益は固定資産売却益や投資有価証券売却益が減少したものの、前年同期に発生した投資有価証券評価損が無かったことから、前年同期比14億5千7百万円改善しました。

これらの結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は54億3千3百万円（同36.5%増）と増益になりました。

なお、対米ドル換算レートは1米ドル108円27銭であります。

（2）当四半期の財政状態の概況

総資産は、丸一ステンレス鋼管(株)を新規連結したこともあり、前年度比74億1千6百万円増加し3,175億3千6百万円となりました。

流動資産は、29億6千5百万円減少し1,664億1千6百万円となりました。丸一ステンレス鋼管(株)の株式譲受資金139億2千1百万円の支出等によって現金及び預金が109億4百万円減少しました。また、丸一ステンレス鋼管(株)の新規連結等から、製品が5億5千4百万円、原材料及び貯蔵品が65億6千4百万円増加したことによります。

固定資産は、103億8千1百万円増加し1,511億1千9百万円となりました。主な増減要因は、丸一ステンレス鋼管(株)の新規連結等から有形固定資産が95億4千7百万円増加したことによります。

負債は、64億2千5百万円増加し492億6千2百万円となりました。主な増減要因は、丸一ステンレス鋼管(株)の新規連結等から、短期借入金が50億4千万円、退職給付に係る負債が18億5千9百万円増加したことによります。

純資産につきましては、9億9千1百万円増加し2,682億7千4百万円となりました。主な増減要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益を54億3千3百万円確保し配当金の支払が54億2千6百万円あったことに加え、その他有価証券評価差額金が14億6百万円増加したことによります。

なお、資本の財源および資金の流動性については、前連結会計年度と大きな変動は無く、運転資金及び設備資金は自己資金を中心に充当し、国内及び海外子会社の借入金の返済の流動性は満たしておりますが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う先行き不透明感からも、引き続き当社グループ全体での円滑な事業活動の資金について留意してまいります。

（3）今後の見通し

今後の見通しにつきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況が続くと見込まれます。感染症の収束が見通せない中で、経済活動との両立を進めているものの、日本を含む全世界経済への悪影響と下振れリスクから先行き不透明感が続いております。

2021年3月期の連結業績予想は、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受ける見込みとなっております。当上期は、国内は予想を下回った一方、海外がロックダウンの影響があったものの想定した程に悪化しなかったことから予想を上回り、全体では予想を上回る実績となりました。下期も同様に当初予想に対して、国内は下振れ、海外は上振れの傾向が見込まれております。前回公表した予想の前提条件に対して、セグメント別には以下の通りとなっております。

当社といたしましては、感染症の拡大防止に努めながら、第5次中期経営計画の最終年度として主要施策の着実な実行の為、各地域での状況変化を的確に把握し、マイナス要因をミニマイズする迅速な対応を引き続き進めてまいります。

（日本）

国内単体事業につきましては、販売数量は足元で仮需的な動きは拭えないものの自動車などで一部回復の兆しもあり、前年同期比約△8%程度の水準を見込んでおります。また、母材コイル供給のタイト感もある中で、材料コイル調達価格が値上げとなりコスト的に厳しい状況になっております。木目細かい営業活動によって、販売数量の確保と共に材料価格上昇分の製品販売価格への転嫁に取り組んでまいります。加えて、工場の生産性向上やコストダウンに努め、業績予想の確保に取り組んでまいります。また、この4月より新規連結した丸一ステンレス鋼管(株)も、ステンレス管は需要減の影響から受注が減少しており、付加価値の高い半導体製造装置向けBA管の取り組み強化や、収益力改善の各種プロジェクト活動の推進を図ってまいります。設備投資関連では、環境対応仕様のカラー製品需要の拡大に対応すべく、連結子会社である九州丸一鋼管(株)では新規カラー塗装設備の生産を5月から開始し、一方、北海道丸一鋼管(株)での新工場建設は順調に進めております。

(北米)

北米事業につきましては、経済活動の早期再開から需要の回復の兆しもあり、北米4拠点合計の下期販売数量は前年同期比約7%程度増の水準を見込んでおります。足元ではコイル価格が急激に上昇しており、販売数量の確保と共にパイプ価格の値上げ浸透に取り組んでまいります。また、コイル価格の急変動に対応すべく、木目細かな仕入・在庫のコントロールを図り適正水準を維持して在庫保有のリスクを軽減してまいります。

(アジア)

アジア事業につきましては、米国の通商問題や近隣諸国の輸入制限措置の影響で供給過剰によるアジア地区全体の鉄鋼市況は混乱しております。ベトナムSUNSCO社では、販売量の低迷やスプレッド改善が難航する厳しい状況が続いておりますが、在庫の圧縮や設備の減価償却を進め、借入金を削減する経営に注力してまいります。また、冷間圧延能力不足の解消、コスト削減、品質向上などに向け第2冷延ミルの新設は順調に進めております。ベトナムSUNSCO(HNI)社では、ベトナム国内での二輪販売の動きが鈍くなりつつあり、下期は前年同期比2割程度減の販売数量を見込んでおります。インドKUMA社では、ロックダウン解除後に二輪&四輪市場の需要が急回復しており、下期は前年同期比3割程度増の販売数量の確保に取り組んでまいります。

この様な見通しのもと、2021年3月期の連結業績予想は、前回(2020年5月13日)の公表値から一部見直しを行い、売上高は1,570億円、営業利益は152億円、経常利益は172億円、親会社株主に帰属する当期純利益は108億円に修正いたしました。なお、配当予想につきましては、当社配当方針が単体の経常利益を基礎とした算出を行っており、単体の経常利益水準は前回公表通りに見込まれることから、前回公表値である1株当たり年間配当金64円50銭を据え置いております。

上記の業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。特に、新型コロナウイルス感染症による関係国の行政措置に大きく影響を受ける可能性があり、実際の業績はこれらの予想と異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	83,827	72,922
受取手形及び売掛金	33,665	36,498
有価証券	21,421	18,624
製品	10,801	11,356
原材料及び貯蔵品	17,060	23,625
その他	2,808	3,543
貸倒引当金	△202	△154
流動資産合計	169,382	166,416
固定資産		
有形固定資産		
土地	32,956	36,744
その他	43,021	48,780
有形固定資産合計	75,977	85,524
無形固定資産		
のれん	446	497
その他	839	846
無形固定資産合計	1,286	1,343
投資その他の資産		
投資有価証券	60,496	61,387
その他	2,976	2,868
貸倒引当金	—	△3
投資その他の資産合計	63,473	64,252
固定資産合計	140,737	151,119
資産合計	310,120	317,536

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	22,275	19,967
短期借入金	5,527	10,567
未払法人税等	1,620	2,600
賞与引当金	895	1,116
役員賞与引当金	77	41
その他	5,900	5,534
流動負債合計	36,296	39,827
固定負債		
長期借入金	906	845
役員退職慰労引当金	110	116
株式給付引当金	155	210
退職給付に係る負債	2,956	4,816
繰延税金負債	1,834	2,855
その他	578	590
固定負債合計	6,541	9,434
負債合計	42,837	49,262
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,595	9,595
資本剰余金	15,926	15,925
利益剰余金	255,033	255,040
自己株式	△27,010	△26,949
株主資本合計	253,545	253,611
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,079	7,486
為替換算調整勘定	△2,359	△2,683
退職給付に係る調整累計額	14	0
その他の包括利益累計額合計	3,734	4,802
新株予約権	188	162
非支配株主持分	9,814	9,697
純資産合計	267,282	268,274
負債純資産合計	310,120	317,536

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
売上高	78,113	77,326
売上原価	64,150	63,386
売上総利益	13,962	13,940
販売費及び一般管理費	6,997	6,679
営業利益	6,965	7,260
営業外収益		
受取利息	157	119
受取配当金	809	603
持分法による投資利益	145	51
為替差益	—	18
不動産賃貸料	349	421
その他	202	239
営業外収益合計	1,663	1,454
営業外費用		
支払利息	159	91
為替差損	38	—
不動産賃貸費用	131	139
その他	31	51
営業外費用合計	359	282
経常利益	8,268	8,432
特別利益		
固定資産売却益	452	0
投資有価証券売却益	199	69
受取保険金	6	—
特別利益合計	658	70
特別損失		
固定資産売却損	12	—
固定資産除却損	24	43
投資有価証券売却損	0	5
投資有価証券評価損	2,039	—
災害による損失	17	—
特別損失合計	2,094	49
税金等調整前四半期純利益	6,832	8,453
法人税等	2,789	2,826
四半期純利益	4,042	5,627
非支配株主に帰属する四半期純利益	61	193
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,981	5,433

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益	4,042	5,627
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,356	2,199
為替換算調整勘定	△1,145	△476
退職給付に係る調整額	19	△15
持分法適用会社に対する持分相当額	△84	△757
その他の包括利益合計	△2,566	950
四半期包括利益	1,476	6,577
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,707	6,501
非支配株主に係る四半期包括利益	△230	75

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報)

前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	日本	北米	アジア	計		
売上高						
外部顧客への売上高	50,599	13,731	13,783	78,113	—	78,113
セグメント間の 内部売上高又は振替高	89	—	27	117	△117	—
計	50,689	13,731	13,810	78,231	△117	78,113
セグメント利益又は損失(△)	7,401	△771	219	6,849	115	6,965

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額115百万円はセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	日本	北米	アジア	計		
売上高						
外部顧客への売上高	54,437	10,991	11,897	77,326	—	77,326
セグメント間の 内部売上高又は振替高	144	—	63	207	△207	—
計	54,581	10,991	11,960	77,533	△207	77,326
セグメント利益又は損失(△)	6,662	△168	677	7,172	88	7,260

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額88百万円はセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第1四半期連結会計期間において丸一ステンレス鋼管株式会社を連結の範囲に含めたことにより、第2四半期連結累計期間のセグメント資産は24,088百万円増加しました。この結果、前連結会計年度の末日に比べ、「日本」のセグメント資産は18,583百万円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。